

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|--------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 2791300078 | | |
| 法人名 | 株式会社 ニチイ学館 | | |
| 事業所名 | ニチイケアセンター貝塚(はなみずき) | | |
| 所在地 | 大阪府貝塚市加神1丁目10-3 | | |
| 自己評価作成日 | 平成27年2月17日 | 評価結果市町村受理日 | 平成27年4月30日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kanji=true&JigyosyoCd=2791300078-00&PrefCd=27&VersionCd=022 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|------------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター | | |
| 所在地 | 〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル | | |
| 訪問調査日 | 平成27年3月6日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームで生活されるようになって、常に季節を感じて頂けるように季節ごとの行事や散歩などを積極的に行っています。裏庭が広く車椅子でも外に出れるので気候のよい時は、裏庭で食事会を開催したり重度の方も外気に触れる機会を作る努力をしています。施設前は静かな住宅街で車通りも少なく田んぼもありのどかな環境です。近隣の貝塚高校の福祉科の生徒さんに至っては1年生の授業の一環として当ホームに来て自分たちで考えたゲームや遊びなどを披露してくれています。3年生はヘルパー2級講座の施設実習先として当ホームを選んで頂き、今年から10名ほどの生徒さんが実習に来られます。そして今後は貝塚高校の生徒さんが当ホームへ就職したり、ボランティアとして遊びに来てくれたりして、ますます地域に密着したグループホームになるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホーム前の道路は交通量も少なく利用者と安全に散歩を楽しめる環境があり、田んぼなどの景色から季節を感じながら毎日散歩を楽しんでいます。車椅子の利用者も裏庭から安全に玄関まで移動ができ、歩行訓練や気分転換も個々の思いにそって気軽に外に出たり、外気に触れ食事を楽しむなど重度になってもホーム内で過ごすのではなく外に出る機会を大切に支援しています。「元気いっぱい、笑顔いっぱい」と掲げた独自の理念のもと、認知症になっても利用者に主体的に自由に過ごしてもらえよう、職員は試行錯誤をしながら日々のケアを実践しています。運営推進会議に家族の積極的な参加が得られ、利用者や家族の希望にそえるよう意見や要望を真摯に受け止めサービスの質の向上へ繋がるよう、管理者のリーダーシップの下で一丸となって取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|---|--|--|--|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 「元気いっぱい、笑顔いっぱい」をホームの理念とし、ニチイ学館の社是と経営理念と共に毎日朝の会議で唱和している。 | 法人の社是、経営理念とホーム独自の理念を玄関に掲示し、毎朝唱和しています。管理者は理念に込めた思いを共有できるようアンケートを取ったり、現状に即した理念か検討を重ねています。「元気いっぱい、笑顔いっぱい」の理念の基、利用者に自由に過ごしてもらえよう日々のケアを実践し、会議で実践状況を振り返っています。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 町内の文化祭に参加したり、散歩時に近所の方にあいさつするなどしているが、溶け込むまでには至っていない。 | 地域の情報は、運営推進会議や行政より得て町内の文化祭に出かけたり、役場まで花を買いに行っています。学校から依頼があり、高校生がハーモニカのボランティアで来訪し楽しんでいます。散歩時に会った方と挨拶を交わしたり、隣の他事業所と交流しています。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 現在、市内の他の事業所と協力して支援できないか模索中である。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に1度の運営推進会議では、ホームの取り組みの報告や今後の予定などを書面でお渡しし、参加頂いた方と積極的に意見交換を行っている。 | 会議は、市職員や地域包括支援センター職員、町会長、家族等の参加の下、隔月に開催されています。事故報告や職員の人員、家族会の内容などの報告後に意見交換をしています。家族からは要望が多く出され、貴重な意見として捉え検討し、運営に活かされるよう取り組んでいます。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 何か問題があれば、運営推進会議等で一緒に考えてくれている | 運営推進会議に市から毎回出席があり、ホームの実情を把握してもらえ、また、行政から法人に伝えてもらうこともあります。ボランティアの情報や他事業所と集える機会が増えている等、行政と協力関係を築けるように努めています。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束についての講義をホームの全体会議のときに1年に1回は必ず行っている。夜勤帯の時間以外は玄関の鍵は施錠していない。 | 年1回は身体拘束についての勉強会に全職員が参加し、周知に努めています。2ヶ月毎に行う勉強会では、具体的なケアの場を通して身体拘束をしていないか振り返るようにしています。玄関やユニット入り口は施錠せず、センサーを付け職員間で見守り、外に出たい時は一緒に付き添い気分転換を図っています。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待についての講義をホームの全体会議のときに1年に1回は必ず行っている。 | | |

ニチイケアセンター貝塚(はなみずき)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 現状、研修を実施できていない。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時は途中疑問点がないか必ずお聞きしながら進めている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ホームの運営に関してアンケート用紙を配り、家族様の希望や苦情などをお聞きしていると共に、その意見を十分生かすことが出来る様努力している。 | 法人で顧客満足度アンケートを実施したり、運営推進会議や家族会、ホームに来られた際に意見や要望を聞いています。往診医についてや献立について等、意見や要望が気軽に出されています。往診医の変更の案内をし家族会に多くの参加が得られ説明したり、献立表の配布に繋げる等、出された意見は運営に反映させています。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 月一回のホーム会議において、意見提案の機会を設けたいと思っているが、現状、他に事案が多くあり意見提案・反映には至っていない。 | 毎月ホーム会議があり議題について説明をし、職員が意見を出しやすいよう管理者が席を外し、グループワークが行われています。その中で職員が主体で行事を決めたり、目標を皆で決め実践する等、職員の創意工夫ややりがいを持ち取り組めるよう配慮がなされています。決められた内容はサービスの向上に活かせるように努めています。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | ステップアップ制度や資格手当などを設けている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 実践者研修や、リーダー研修など必要に応じて受けている。法人内の研修等については社員割引制度などがある。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 平成25年度より貝塚市GH連絡会が発足となり、今後同業者との意見交換する場が増えると思われる。 | | |

ニチイケアセンター貝塚(はなみずき)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | ご入居前に家族様にセンター方式を記入してもらい情報を得るように努力している。面談時にはご本人とお話し関係作りに努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ご入居前に家族様にセンター方式を記入してもらい情報を得るように努力している。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ご入居に当って車椅子やベッドが初めから必要と判断した場合は事前に用意し、必要ならば主治医に相談している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 全てするのではなく何かできる方にはしてもらい、入居者様と共に生活しているという意識をスタッフに持ってもらうように教育中である。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族様がホームに来られたときは近況などご本人の様子をお話しており、家族様の要望などもお聞きしている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | なかなか難しいが、昔の職場仲間や近所の方など面会に来られる方もいる。馴染みの場所への支援には至っていない。 | 以前住んでいた地域の知人や親戚の方、兄妹が来られた際には、寛いでもらえるよう配慮をしています。家族との協力で知人が面会に来られ、一緒に花見の行事に参加する方もおり、今後も花見での再会を実現できるよう考え、馴染みの人との関係が継続できるよう支援しています。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | スタッフが全てするのではなく、入居者同士で助け合える関係作りをできるようにスタッフに理解を求めている過程である。 | | |

ニチイケアセンター貝塚(はなみずき)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 入院された方にはお見舞いに行ったりしている。退去後も何かあれば気兼ねなく相談してほしいことは伝えている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 定期的にサービス担当者会議等で話あっている。 | 入居時に本人、家族から生活歴や趣味などの情報を得て、思いや希望を把握しています。入居後は、日々の関わりの中で得た情報等を職員から聞きとり、計画作成者が記録し、会議で話し合い思いの把握に繋げています。担当者がその人の思いや意向など気づいたことの記録ができることを課題に挙げています。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ご本人やご家族様、担当CMからの情報を出来るだけ全スタッフが共有できるよう勤めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 管理日誌や個人記録などにしっかり記録することで現状の把握に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | サービス担当者会議やモニタリング等でスタッフの意見を聞き計画作成者がまとめ、介護計画書を作成している。新しい計画書は必ずご家族様に確認して頂いている。 | 本人、家族の思いや希望、アセスメントを基に介護計画を作成しています。計画作成者は、日々の記録や職員から聞いた事を支援経過にまとめ、3か月毎にモニタリングと評価を行い、見直しに繋げています。サービス担当者会議やミーティングで職員の意見を聞き、医師の意見も反映させた介護計画を作成しています。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | ユニットごとの管理日誌と個人記録の2種類のファイルがあり、出来るだけ細かく記録に残すよう努めていると共に振り返りや反省に生かしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 往診医以外の病院の通院や、介護サービス以外の自費でのサービスも支援している。 | | |

ニチイケアセンター貝塚(はなみずき)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 施設の周りの散歩時にコンビニや和菓子屋で買い物をしたり、福祉センターに体重測定等に行くようにしている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 2週間に1度往診にきてもらっている。急な体調不良時は主治医の指示を仰ぎ必要であれば職員が付き添って受診もしている。何か体調の事で不安があれば電話等で指示を仰いでいる。 | 今までのかかりつけ医の受診や提携医について説明を行い、選択してもらっています。かかりつけ医の受診は家族が行い、必要時には職員も付き添い情報提供を行っています。月2回の協力医の往診の他、皮膚科、精神科、外科も含め往診に来てもらえ、24時間連絡が取れる体制にあります。週2回ある訪問歯科では必要な方が利用されています。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 週に1度訪問看護師が往診に来て、日常の健康管理を行い、必要に応じて主治医に連絡、報告をしている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | H27.2月より主治医のクリニックが変更になり、これから関係づくりを行って行くところであり、現在は主治医及びクリニックと事案がある時に話し合い進めている状況である。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 契約時に重度化した場合における指針として書類を作成しており説明、同意を頂いている。 | 契約時に重度化した場合について指針を基に説明をしています。重度化が見られたら指針に立ち戻り、その都度状況確認や方向性を話し合っています。今後看取り時の対応について具体的にホームで出ることや出来ないこと等、家族に説明できるよう資料を揃えていきたいと考えています。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変時についての対応はマニュアルに則り、又、各フロアに緊急時の対応方法を張り出している。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回消防訓練を行っており、避難場所や避難経路などもその度確認している。地域との協力体制の構築までは至っていない。 | 年2回行う避難訓練は昼夜を想定し、通報、初期消火、避難誘導の訓練に利用者も参加しています。敷地内にある他事業所の防災訓練に消防署から来られ、その際にアドバイスをもらい、また町会長より地域の防災の情報は得ています。備蓄の準備や確認を行い、今後行事の中に避難訓練を入れ、回数を増やしたいと考えています。 | 防災訓練の回数増を検討をされ、今後地域との協力体制も築いていけるよう案内を出され、またホームを知ってもらうきっかけになることに期待します。 |

ニチイケアセンター貝塚(はなみずき)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 言葉使いには充分注意し、子供扱いしているような言葉掛けにならないよう努めている。 | 接遇マナーについて研修で学び、新人職員には日々のケアの中で具体的に指導をしています。先ず利用者一人ひとりを大切に尊重することを伝え、言葉遣いや対応方法など具体的に説明をして理解を促しています。一人になれる時間やスペースの確保ではプライバシーへの配慮も心がけています。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 何か食べたいものは無いか、洋服はどれを着るかなど、なるべく選択肢を2~3個に絞って、ご本人に意見を聞いて選んでもらっている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 体調を確認し出来る限り、その人のペースを大切にしている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 整容のお手伝いや外出時の服装選びなど一緒に考えている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 出来るだけ声掛けを行い、台所に来て頂き、お手伝いして頂いている。職員がご入居者と一緒に食事をする事は行っていません。 | 利用者の好きな物を聞いて献立に取り入れ、嫌いな献立の時には代替食を提供しています。調理レクリエーションではお好み焼きや鍋パーティーを行い、利用者には下拵えなど出来る事に関わってもらっています。弁当を取ったり、外食では回転寿司やうなぎ屋へ出かけています。裏庭での食事会を試み、普段見られない利用者の食欲の様子から、食べることの楽しみや食欲の増進に繋がっています。また職員も一緒に食事を取るよう心がけています。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事量や水分量は個人記録に残し把握しており、水分摂取量が少なければ、声をかけ摂取して頂いたりしている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 希望により訪問歯科も利用している。スポンジ歯ブラシや歯ブラシを使用し入れ歯のケアも含め口腔ケアは行っている。 | | |

ニチイケアセンター貝塚(はなみずき)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 定期的に排泄介助は行っている。 | 個々の排泄記録を基にパターンを把握し、できるだけトイレで排泄が出来るよう支援しています。個々にそって定時、随時に声かけや誘導を行い、利用者のサインも見逃さないように努め失敗が少なくなるよう支援しています。ポータブルトイレを利用している利用者にトイレへの声かけと誘導を行うことで、トイレでの排泄に繋がった事例があります。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 乳製品等を食事に取り入れたり、散歩など軽い運動をすることで便秘予防に努めている。其の上で便秘のひどい方は医師から便秘薬を処方してもらっている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | ある程度ご本人の希望する時間に入浴出来る様努めているが、無理な時間帯もある。 | 入浴は週2～3回を目途に午後から入ってもらい、状況によっては午前中の中入浴支援も行っています。好みの湯の温度を設定し、湯は毎回変え気持ちよく入ってもらえるよう配慮しています。入浴剤を使用し手作りの糸タワシが使われる方がいるなど入浴が楽しめるよう工夫し、拒否の方には散歩を試みて気分を変えて入ってもらえています。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 入浴後や外出先から帰ってきたときなどはしっかり水分補給をして頂き休息を取って頂いている。睡眠不足の時は昼寝を促したりしている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬は全てホームで管理しており、医師からの処方せんで薬の副作用などについても全スタッフが理解している。分からない時は主治医に質問している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 両フロア共同でお菓子作りなどのレクリエーションの機会を増やし利用者同士のコミュニケーションをとって頂いたり、可能な限り準備等をお手伝い頂くようにしている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 気候の良い時期はなるべく散歩に行くようにしている。重度の方は玄関先や裏庭にでるだけになるがなるべく外気に触れて頂ける環境づくりを目指している。季節によっては遠足や御花見などの遠出の外出も行っている。 | 利用者の気分にそって毎日散歩をしています。利用者の希望で外に出て歩行運動を行ったり、気分転換を図るために戸外へ出るなど個別の対応を心がけています。重度化になり外出の機会が減っていますが、車椅子の方も裏庭から安全に外に出ることができ、外気浴の機会を作っています。外食やお花見、遠足では遠方への外出も支援しています。 | |

ニチイケアセンター貝塚(はなみずき)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | ホームで個人のおこずかいとして上限を1万円として家族様からお預かりしているが、ご本人が自由に使えるよう支援している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 家族に電話して欲しいと訴えがあれば、ホームの電話を使用してもらっている。その際電話番号を探したり、番号を押すなどの支援をしている。字を書く方には年賀状などを書いて出す支援をしている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | トイレや共用のリビングや各居室は毎日掃除と整理整頓を心がけ、危険箇所が無いか確認している。空調については快適に過ごして頂けるようこまめに温度調節をしている。 | 玄関やリビングは明るく、カーテンで日差しの調整や自然の風を取り入れ、空調管理や清掃、清潔を保てるよう心がけ、感染予防には特に注意を払っています。和室への出入りは段差がなく、新聞を読んだり横になれる休憩場として利用しています。テレビや生花、小物などの置物で温かく家庭的な雰囲気作りをしています。テーブルの席は気の合った利用者同士が過ごせるようにし、居心地の良い共用空間作りに努めています。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | それぞれの好みを考慮し、テレビの見やすいところやトイレが一番近いところ、窓からの日差しが一番届きかばかするところ、楽しくお話ができる方の隣など常に考えて座って頂いている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 基本は入居時、ご家族様に馴染みのものを揃えて頂き、ご本人が一番落ち着く様に部屋のレイアウトしている。 | 各居室にはクロゼット、カーテン、エアコンが備え付けられ、それら以外は持ち込みが自由であることを説明しています。使いなれた家具類やペットを持ち込み、自宅と変わらないよう家族と配置を工夫し、職員は決められた配置にそって利用者の安全面に配慮しています。仏壇、遺影、家族の写真、自作の作品など大切にしてきたものを飾り、新聞や本を読む等、利用者は思い思いに過ごせる居場所となっています。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | トイレの場所や自室の場所が分かりやすいようにプレートを貼ったりしている。個別のものには色分けや名前を記入したり置く場所を決めたりしている。 | | |